

第658回

九州朝日放送番組審議会議事録

—— 2023年11月度 ——

◇ 開催日

2023年11月20日（月）

◇ 議題

<テレビ番組>

テレメンタリー2023

「壊山～300年前の“記録”から繋ぐ防災の未来～」

放送日時：10月24日（火）25：35～26：05

九州朝日放送株式会社

第658回 番組審議会議事録

1. 開催年月日 2023年11月20日(月) 15時27分～16時30分

2. 開催場所 九州朝日放送 本社7階A会議室

3. 委員の出席

委員総数 8名

出席委員数 6名

委員長	藤村	まこと
副委員長	田川	真司
委員	山根	久資
委員	副田	智幸
委員	小柳	美佳
委員	サーズ	恵美子

欠席委員数 2名

委員	丸石	伸一
委員	上野	恵梨奈

放送事業者側出席者名

代表取締役社長	森	君夫
執行役員 総合編成局長	木附	ゆかり
執行役員 報道情報局長	柴田	高宏
報道情報局 報道情報センター長	野村	友弘
報道情報局 報道情報センター 部長代理	前田	輔
番組プロデューサー		
報道情報局 報道情報センター 番組ディレクター	神野	勇人
番組審議会事務局 兼 視聴者・広報室長	吉岡	実
番組審議会事務局 (視聴者・広報室) 担当部長	西俣	信寿

4. 議題

- (1) テレビ番組 テレメンタリー2023

「壊山～300年前の“記録”から繋ぐ防災の未来～」

放送日時：10月24日（火）25：35～26：05

- (2) 11月・12月 ラジオ・テレビ番組編成状況の報告
(3) 10月 視聴者・聴取者応答状況の報告
(4) その他

5. 議事の概要

委員の意見（概要）

委員からは、

- 土石流災害が起こるメカニズムを古文書や専門家による分析といった複数のアプローチで明らかにしようとしていて、災害の予防につながるような発見や情報があった。
- 300年前の記録など、丹念に取材しているのが良かった。災害情報に関して「アサデス。」等も含めて地道に取り組んでいるKBCらしい番組だと感じた。
- ハザードマップと実際の現地の映像が照合されていて、非常に分かりやすかった。ハザードマップが絶対ではないことが、短い放送時間内で分かりやすく説明されていた。
- 福岡県の担当者の話などを通じて、ハザードマップが画一的な調査で決められていて、警戒区域ではない住民も被災する可能性があることを警告するとともに、ハザードマップの今後の在り方の再検討を促したという点で、大変意義のある番組だった。
- 「災害や防災に絶対はない」ことを強く認識させられた。「ハザードマップ上は安全地帯であっても、避難指示が出れば避難すべきだった」という住民の言葉が非常に大切だと感じた。
- 地域住民の声で災害当時の様子をしっかり見聞きすることができた。県の担当者の真摯な取材対応も、そこに至るまでに丁寧なプロセスを経た証であると感じた。
- グラフィックを駆使して被災現場全体の状況を分かりやすく伝え、発生の原因や再発予防策を指摘する専門家の話に説得力を持たせる工夫が感じられた。
- ナレーションに被災地である久留米出身の田中麗奈さんを起用し、悲惨な状況の映像に優しい声と語りが合わさって落ち着きをもたらしていた。

などの評価を頂きました。

一方、気になる点や望むこととして、

- ハザードマップ上の警戒区域外も安全とは限らないことは分かったが、「警戒区域に指定されている＝危険」が実際に成り立っているのか、一致率のようなものも知りたいと思った。
- この番組を制作しようと考えたきっかけを教えてください。もともとハザードマップに関連した番組を検討していたのか、あるいは災害の発生を受け、取材を始めたのか。
- 警戒区域について、県の担当者が「全国一律の基準」に沿って指定していると話していたが、

指標の見直し等について国がどう考えているのか知りたい。

- 警戒区域における被害の全体像も含めて報道したうえで、今後、同様の被害を発生させないために何ができるか、といった提言ができたならさらに素晴らしい番組になったと思う。
- ハザードマップの精度を上げるために、各自治体でどのような取り組みがなされているのか、更新の頻度は適正か、といった点を検証する番組を作ってほしい。
- 「防災の未来」というテーマにしては、解決策の提案や提言が不十分だったのではないか。他の自治体の先進事例など、もう少し踏み込んだ解決策や改善策を提起してほしい。
- ハザードマップの「安全」を疑ってみる必要があるという問題提起を踏まえて、福岡県の他の地域についても検証してみてもどうか。同様の事例があるなら、番組の意義がさらに深まると思う。
- 今後、続編や同様のテーマで番組を作る予定があるか。KBCは防災に積極的に取り組んでいるので、方針があれば教えてほしい。

などの批評や提言を頂きました。

これらに対して、制作担当者からは、

- ハザードマップの一致率について公式データがあるわけではない。今回はハザードマップを過信することの危うさを伝えなかったのが、警戒区域から外れていながら被災したケースに焦点を当てた。
- この番組は、災害発生直後のニュース取材を重ねる中で感じた疑問点をまとめたもので、特にハザードマップに関して「なぜ空白地帯が生じたのか」といった点を検証し、視聴者に伝えたいと考え、番組を制作した。
- 警戒区域の設定について、県としてはあくまで「国の基準に則って」ということだが、その正当性を国がどう説明するか、今後取材することを検討したい。
- 今回は被害の検証に重きを置く形になったが、警戒区域を含めた被害の全体像をどのように伝えるかといった点についても、今後、考えていきたい。
- ハザードマップを充実させていく取り組みは、各自治体で少しずつ進んでいる。今後、どうしたらハザードマップがより分かりやすく、住民の避難につながる形になるか、改めて取材し、報道していきたい。
- 「防災の未来」というテーマについて、まずはハザードマップの問題を知ってもらうことに今回は注力したが、他の先進的な取り組みなど30分という放送枠の中で表現できなかった部分もあるので、さらに深い提言ができるよう検討したい。
- ハザードマップが国の基準に基づいて作成されているという現状を踏まえ、地域ごとにどのような形が望ましいのかという点はしっかり再検証する必要があると考えている。
- 今回は30分番組だったが、他の先進事例などご指摘いただいた点を踏まえて、1時間前後の番組を作ることを想定して、取材を継続していきたい。

などの説明をしました。